

『この世界からサイがいなくなってしまう  
アフリカでサイを守る人たち』という本の感  
想で、青少年読書感想文全国コンクールの優  
良賞を頂いた、本校三年生の川辺君の読書感  
想文を月曜朝礼時にお読みしました。

問題の根っこ

立教小学校 川辺凜太郎

「ああ、どうしたらいいのだろう。」  
さいしよに本を読み終えた時の気持ちだ。

ぼくは動物園に行く時、サイに会える事を  
とても楽しみにしている。だから、この本を  
見た時、「え？いなくなるの？」と思い、手  
に取らずにはいらなかった。読み始めると  
密りよう者をゆるせないという気持ちとサイ  
がかわいそうだと思う悲しい気持ちでいつぱ  
いになった。でも、読み進めていくと、ぼく  
の気持ちはふくぎつでぐちゃぐちゃになった。  
サイは何もわからずにくらされて生きのこつ  
ても心のキズは深い。レンジャーも密りよう  
者も自分の目的をはたすために命がけでがん  
ばっているのに、だれも幸せじゃない。

レンジャーはサイやセンザンコウといった、  
密りよう者に命をねらわれている動物を命が  
けで守っているけれど、密りようは止まらず  
終わりが見えない。そんな悲しい事実をかか  
えながら、一所けん命にたたかっている。

密りよう者はほごされている大切な野生動  
物をころして売る悪い人たちだ。でも、なぜ

密りよう者になるのか。それは仕事をさがし  
ても見つからないからだ。密りよう者にとつ  
て密りようは家族をやしなうて生きるために  
仕方がない手段だ。密りよう者だつて密りよ  
うをしたくてやっているわけではないと思う。  
もし、密りよう者がレンジャーという仕事に  
つけたなら、りっぱなレンジャーになったか  
もしれない。自分がころしたしんだサイを見  
て、「ごめんね」と思いながら、角を取って  
いるのかもしれない。

どうしたら、このじょうきをかえられ  
るのか。女せいだけのレンジャーたいブラッ  
クマンバは、アフリカの子どもたちに野生の  
動物を見せて命の大切さを教えている。この  
教えを通して、子どもたちが密りよう者にな  
らないようにしているのだ。ブラックマンバ  
の取り組みはすばらしいけれど、ぼくは、命  
と引きかえにえられるものをほしがっている  
人たちへの教育も必要だと思った。だつて、  
その人たちが密りようを起こしているのだか  
ら。サイの角やセンザンコウのうろこは薬に  
なると思われているけれど、つめと同じ成分  
だから薬なんかじゃないって知っていれば買  
う人がいない。野生動物の命の大切さを自分  
の事のように大切に考えられればほしいと思  
わなくなる。そうすれば密りよう者もいなく  
なるし、レンジャーも命をかけて密りよう者  
とたたかう必要がなくなる。「知る」「考え  
る」ことでたくさん命を大切にできる。

何度も読んでぼくは、本当の問題は表に出  
ているだけではなくてかくれている事もたく  
さんあるという事を知った。ぼくは、たくさ  
んの事を学んで、知って、見える世界を広げ  
たいと思う。そして深く考える事で問題の根  
っこを見きわめる力をつけたいと思う。未来  
のぼくがだれかのために出来る事を見つけ、  
自分が学べた事をだれかの役に立たせられる  
人になれるように。今、一所けん命に多くの  
事を何でも学んでいきたいと思う。



先々週の月曜日、動物物の絶滅には、人間  
が関わっていること。密猟もその原因の一つ  
だとお伝えしました。密猟は、悪いことに違  
いはないのですが、本当の問題は表に出てい  
るだけではなくて、隠れている事もたくさん  
ある。「たくさんさんのことを学んで、知って、  
見える世界を広げ、深く考える事で問題の根  
っこを見極める力をつけたい。」と、川辺君  
は述べています。いや、感激しました。ま  
ったくその通りです。私もそんな人間を目指  
したいです。立教学院の目標は、「テーマを  
持つて真理を探究する」と「共に生きる」で  
す。「共に生きる」仲間つて、人間だけでは  
なく、動物物、あらゆる生物も含まれている  
のですね。(立教小学校校長 田代 正行)